

# 1 令和3年度東京都自立支援協議会活動状況

## 第7期 東京都自立支援協議会委員名簿（令和3年度）

令和3年4月1日～令和4年3月31日

	番号	名前	所属
副会長	1	秋元 妙美	CILちょうふ 代表
副会長	2	石川 まどか	葛飾区福祉部 障害援護担当課長
会長	3	岩本 操	武蔵野大学人間科学部人間科学科 教授
	4	押尾 佳子	江戸川区福祉部障害者福祉課 愛の手帳相談係長
	5	神作 彩子	大田区立障がい者総合サポートセンター 相談支援事業所管理者
	6	茅沼 孝治	立川市福祉保健部 障害福祉課長
	7	九鬼 統一郎	狛江市福祉保健部高齢障がい課 障がい者支援係長
	8	久保 玄	社会福祉法人原町成年寮 サザンクロスかつしか 所長
	9	小阪 和誠	一般社団法人ソラティオ ビアサポート専門員
	10	齋藤 久美子	江東区保健所保健予防課 保健指導担当係長

	番号	名前	所属
	11	佐々木 理恵	東京大学医学部附属病院精神神経科 ビアサポートワーカー
	12	佐藤 淳哉	障害者施策推進部 地域生活支援課長
	13	須藤 利里子	板橋区志村福祉事務所障がい者支援係 身体障害者福祉司
	14	中村 真一	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 本人部会ゆうあい会 役員
	15	西田 伸一	公益社団法人東京都医師会 理事
	16	藤井 亘	特定非営利活動法人クローバー 事務局長
	17	村中 友江	社会福祉法人原町成年寮 生活介護事業所 アンジュ
副会長	18	森山 瑞江	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 副理事長
	19	柳瀬 達夫	社会福祉法人鶴風会 西多摩療育支援センター 障害者支援施設 楽 施設長
	20	山地 圭子	社会福祉法人多摩棕櫚亭協会 障害者就業・生活支援センター オープナー 施設長

※ 五十音順

## 令和3年度 東京都自立支援協議会 活動のまとめ

第7期テーマ（令和3・4年度）： 都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに地域課題への取組を考える

### 協議事項に基づく検討 「当事者の視点に立って地域課題を検討する」

第1回本会議 6月7日（月）13時00分から15時30分まで

#### <報告・情報提供事項>

- （1）第9期東京都障害者施策推進協議会について
- （2）令和2年度東京都自立支援協議会活動のまとめ
- （3）「令和2年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査結果について

#### <協議事項>

- （1）第7期東京都自立支援協議会のテーマ及び令和3年度活動方針等について
- （2）令和3年度東京都自立支援協議会活動計画について
- （3）地域自立支援協議会や日々の活動等で感じる地域課題等について

#### <その他>

第2回本会議 2月28日（月）13時30分から15時30分まで

#### <報告・情報提供事項>

第9期東京都障害者施策推進協議会第4回総会について

#### <協議事項>

- （1）「令和3年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査票（案）について
- （2）令和3年度地域自立支援協議会交流会及び東京都自立支援協議会セミナーの振り返り
- （3）令和3年度の協議会活動のまとめ及び次年度に向けた課題について

#### <その他>

### 地域協議会の情報把握・共有

地域自立支援協議会交流会  
日時：9月27日（月）13時30分から16時まで  
会場：Microsoft Teamsによるオンライン

誰しもが望む地域で希望する暮らし方を実現するためには  
～そのために地域協議会はどんなことができるのか～

#### <グループ討議テーマ>

- ①課題の共有：誰しもが望む地域で希望する暮らし方を実現するために
- ②目標設定：自分たちの地域（協議会）へ持ち帰ること

### 東京の協議会活動の普及啓発

東京都自立支援協議会セミナー  
日時：12月13日（月）13時20分から16時10分まで  
会場：東京都庁第一本庁舎 5階大会議場

本人中心の暮らしはこうして実現する！

#### 基調講演

全国の地域移行・地域生活の効果的な支援モデル  
～本人の望む暮らし・家族、支援者、地域は変わる～

#### パネルディスカッション

地域移行、私の想いは伝わった？

### 地域協議会の情報共有・発信

令和2年度版  
東京都内の自立支援協議会の動向  
（令和3年5月発行）

調査項目、情報発信方法の検討

- ・地域自立支援協議会の様子がわかるよう具体的な取組を記述してもらう。
- ・各区市町村の地域自立支援協議会の活動状況を一覧にまとめ、動向集に掲載
- ・動向集と同内容をセンターホームページに掲載
- ・地域自立支援協議会のホームページリンクの一覧をセンターホームページに掲載

# 令和3年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

## 1 概要

**目的:** ①地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、活動状況に関する情報交換を実施することにより、地域自立支援協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。  
②東京都自立支援協議会として、地域自立支援協議会の活動状況を把握する。

**日時:** 令和3年9月27日(月曜日) 13時30分から16時まで

**開催方法:** Microsoft Teamsによるオンライン開催

**対象者:** 地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員  
東京都自立支援協議会委員・事務局関係者

**周知方法:** 各区市町村の地域自立支援協議会会長、主管課長宛てに通知を発送  
各区市町村の地域自立支援協議会主管課へメール及び電話連絡

**参加者数:** 95名

- ・区市町村参加者 61名(14区14市)
- ・東京都自立支援協議会委員 15名
- ・都事務局関係者 19名

## 2 プログラム

**テーマ** 誰しものが望む地域で希望する暮らし方を実現するためには  
～そのために地域協議会はどんなことができるのか～

### ミニシンポジウム(事前撮影した動画を視聴)

今年度のテーマ選定理由  
話題提供  
グループ討議の進め方

<シンポジスト>

- 東京都自立支援協議会副会長 秋元 妙美 氏
- 東京都自立支援協議会委員 小坂 和誠 氏

<進行>

- 東京都自立支援協議会会長 岩本 操 氏

### グループ討議

他地域の自立支援協議会関係者で意見交換(10グループ)

テーマ1: 課題の共有

- 誰しものが望む地域で希望する暮らし方を実現するために
- ・それぞれの協議会で取り組んでいることは何か?
- ・協議会として取り組みたいことや課題は何か?

テーマ2: 目標設定

- 自分たちの地域(協議会)へ持ち帰ること
- ・取り入れたいアイデア、やってみようことを見つける。
- ・次の一歩(明日から「まずやってみようこと」)を具体的に設定する。

※各グループでワークシートに意見等をまとめ、交流会終了後に参加区市へ情報提供

# 令和3年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

## 3 プログラム構成のねらい

(交流会グループによる検討より)

### 1 交流会のテーマ設定理由

- 協議会委員として、課題を感じていること
  - ・都外からの地域移行について、課題が多いと感じる。
  - ・都外からの地域移行は東京都ならではの課題である。
  - ・形骸化していると思われる自立支援協議会をどう活性化するか問題
- 課題についての検討
  - ・部会として地域移行を題材としているところは少ないイメージがある。(⇒地域移行の部会設置は8か所、地域生活支援関係20か所程度 令和2年度版動向集より)
  - ・各自立支援協議会で地域移行に関して目標を設定して取り組んでいると思うが、目標に到達するのは難しい現状があると思われる。
  - ・地域移行の受入れ先(グループホーム等)の数も必要だが、それだけではなく、支援内容についても問題があると思われる。
  - ・権利擁護の観点で見ると、その人の思いに沿って実現することが大事だと思う。
  - ・各自立支援協議会では、具体的な課題が見つかりにくいのではないかと、地域ごとに温度差もありそう。
- 今後の協議会活動に必要なこと
  - ・そもそも、障害のあるなしに関わらず、自分が希望する生活をしていく地域社会にしていく必要がある。
  - ⇒「誰しものが望む地域で希望する暮らし方を実現するためには」をテーマに
  - ・地域によって社会資源に差がある現状の中、協議会をどう活性化させていくか

### 2 交流会終了後の取組の促進

- グループ討議で「自分たちの地域(協議会)へ持ち帰ること」を意見交換し、取り入れたいアイデアややってみようことを見つけ、次の一歩(明日から「まずやってみようこと」)を具体的に設定する。
- 全体でグループ討議の共有をする代わりに、各グループの意見をワークシートにまとめ、後日、参加区市に送付  
→ワークシートで他のグループのアイデアを共有する。

## 4 参加者アンケート

回答数: 36

### ミニシンポジウム

非参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
13 (36.1%)	22 (61.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)

### グループ討議・全体会

非参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
13 (36.1%)	22 (61.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)

<自由意見>

- 障害福祉における核心的なテーマ設定であり、行政だけでは考えつけない意見や考えに触れることができたため、参考になった。
- 協議会の事務局として、直接当事者の方の声を聞く機会があまり持てていないことに気づかされた。まずは当事者の声を聞くことの重要性や必要性を改めて実感した。
- それぞれの地域から提出されたアンケートとりまとめを興味深く拝見した。特徴が出ていたところもあれば重なるところもあり、参考になった。
- 集合での交流会が難しい状況の中、WEB上であってもやはり顔を合わせ話しかけることは重要であり、効果があると実感した。
- グループ討議については、オンラインでも十分に議論できることが体験できたが、テーマが抽象的であったため、議論の深まりに欠けると感じる。
- ミニシンポジウムがビデオ視聴であったが、事前にそれぞれで視聴しておく方法にすると、グループ討議に時間をしっかり取れたのではないかと感じる。

# 令和3年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

## 1 概要

**目的：**東京における共通課題や取組、自立支援協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

**実施方法：**参加者は、会場参加又は動画視聴を選択

(1) 会場参加  
日時：令和3年12月13日(月曜日)13時20分から16時10分まで  
場所：東京都庁第一本庁舎 5階大会議場

(2) 動画視聴  
配信期間：令和3年12月22日(水曜日)9時から  
12月28日(火曜日)17時まで

**対象者：**一般都民、障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

**広報：**  
・チラシの作成・配布(約3,900枚)  
・当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載  
・区市町村主管課長会等での説明、周知依頼  
・「福祉保健」10月号、「広報東京都」11月号等への掲載依頼

**参加者数：**152名(会場参加) ※参考 動画視聴申込者328名

(1) 受講者 124名 (視聴者数は不明)  
所属等別内訳(複数該当があるため、受講者数と一致しない。)

所属等	人数
障害当事者・家族	22名
相談支援事業所	28名
障害福祉サービス等事業所	34名
就労支援機関等	16名
入所施設等	15名
医療機関	3名
民生委員・児童委員	2名
地域自立支援協議会委員等関係者	13名
行政	19名
その他	8名

(2) 聴講者 28名

東京都自立支援協議会委員(登壇者1名を除く。)	11名
東京都自立支援協議会連絡調整会議委員	6名
東京都心身障害者福祉センター職員	11名

## 2 プログラム

### テーマ 本人中心の暮らしはこうして実現する!

#### 第1部 全国の地域移行・地域生活の効果的な支援モデル ～本人の望む暮らし・家族、支援者、地域は変わる～

<講師>

新藤 健太 氏(群馬医療福祉大学社会福祉学部講師)

(概要)

全国の地域移行の素晴らしい実践をインタビュー調査した分析結果や、そこから開発した効果的な支援モデル等についてお話いただいた。

- ・全国の素晴らしい実践をする16法人にインタビュー調査を実施
- ・インタビュー調査で、①ゴール・ミッション、②利用者や家族、地域(社会)、支援職員を対象にした働きかけについて調査
- ・インタビュー調査のデータを分析し、効果的な支援モデルを提案

#### 第2部 地域移行、私の想いは伝わった?

<パネリスト>

上田 久美子 氏(社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会杉並育成園すだちの里すぎなみ利用者、杉並区障害者地域相談支援センター高円寺(すまいる高円寺)非常勤職員(事務補助))

二宮 史子 氏(社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会杉並育成園すだちの里すぎなみ副施設長)

柳沢 陽子 氏(元入院患者)

古橋 陽介 氏(社会福祉法人ひらいらいミナラル相談支援センターくらふと主任相談支援専門員)

<コメンテーター>

新藤 健太 氏(群馬医療福祉大学社会福祉学部講師)

<コーディネーター>

岩本 操 氏(東京都自立支援協議会会長、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授)

(概要)

障害や難病のある方が、自分の望む暮らしがしたいと思った時、その時の周囲の支援、生活体験を通じた地域移行への実現等についての発表とディスカッション

# 令和3年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

## 3 プログラム構成のねらい

(実行委員による検討より)

### 1 テーマ設定理由

○今年度の活動方針に「当事者の視点に立って地域課題を検討する」とあることから、「本人の」が肝になっているのではないかと。

○「住み慣れた地域で、暮らし続ける」という視点で、本人の意思決定支援の話ができればいいのではないかと。本人にとっても、支援者にとっても、可能であれば家族も、本人の意思はどこにあったのかと振り返る機会が必要ではないかと。

○地域移行が善と思って進めていても、ご本人にとってはやはりハードルが高かったり、不安に駆られたりすることも多分あっただろう。当事者の想いや視点に立った地域移行に向けた課題は何かを、考えるきっかけにできたらと思う。

○地域移行・地域定着支援には、そのプロセスや本人が安心安全と思える効果的なモデルの情報や事例が地域自立支援協議会に活かされるのではないかと。当事者の声を交えて、地域でどのようなプロセスが有効かなど支援についてもヒントになることがあればと思う。

○そのプロセスなどを地域自立支援協議会でも共有し、参考となるよう、登壇者を考えたい。

○研究の話だけでなく、実践する支援者や当事者の声を聞くことで、より現実的な課題や事例を聞くことができるのではないかと。

○確かに「意思決定支援」はとても大事で、地域移行するにしても、この意思の確認や体験が何よりも重要であると思う。一方で、地域移行・地域定着支援のきっかけや目的、具体的な活動などを通して、家族、施設職員、地域の変化を聞いてみたい。

### 2 開催方法

○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度同様、感染防止を考慮した人数等による会場とオンライン配信とを並行して開催

## 4 参加者アンケート

回答数：143(会場参加 101名、動画視聴 42名)

### 第1部 基調講演

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
58(40.6%)	70(48.9%)	12(8.4%)	2(1.4%)	0(0.0%)	1(0.7%)

<自由意見>

○限られた時間だったが、様々な立場から地域移行を捉える視点や背景を知ることができた。

○「経験していないことは選択肢として選べない」は、そのとおりだと思った。○これまで地域移行支援を実践してきたが、経験や流れで実現してきたように思う。エビデンスに沿った支援の有効性を感じた。

○地域移行を手探りでっており、方法論がなかった。評価測定ができるとPDCAサイクルにも繋がられるので、是非取り入れたいと思った。目に見える評価は、職員のためにもなる。

○モデルケースを細かく分析し、プロセスを明確にし、誰もが実践できるものに落とし込んでいくというやり方など参考になった。

○難しかった。

### 第2部 パネルディスカッション

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
97(67.8%)	44(30.8%)	1(0.7%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.7%)

<自由意見>

○改めて、ご本人の「ありのままの姿」を大切にしたいと感じた。「したいこと＝自立」そのものを応援できるかと再考する機会になった。

○支援者として励まされた。ご本人の言葉で直接想いを聞かせていただく機会のパワーを感じた。

○利用者へ寄り添うということを改めて考える機会になった。

○お二人の体験から、意思決定を支える条件が大切なことが伝わってきた。急がず、本人の意思がしっかり出てくるのを待つことが大切だと教わった。

○自信を取り戻し一歩踏み出すには、まず体験することが大事。その資源も必要だと感じた。

○一歩一歩、支援者とご本人が歩調を合せていることがとても印象的だった。自分の想いを表出できるようになるまでの信頼関係をつくっていることが素晴らしいと思った。